

■聞き取り地区

八幡地区切差

■聞き取り場所

切差公民館

■聞き取り対象

切差地区の皆さん



景観を形成しています。

蚕は、2〜3か月で羽化から産卵まで完結する生物で、切差地区では、春・夏・秋の年3回絹糸を採ることが出来ます。人によつては晩秋も採るようになっている方もおりました。養蚕において私たちが行う作業範囲は、繭を集めるまでで、それ以降の絹糸つむぎや販売は業者さんに任せておりました。

養蚕の糸は販売することで現金収入になるのは勿論ですが、自分達が着る服の原料としても使っていました。

養蚕が主な生業ではありませんが、生活のために養蚕を行っている最中でも他の幾つかの仕事を並行して取り組んでいました。それは、こんにやく作り、畑作、稲作、キノコ栽培、川魚の養殖や雑木の伐採など多岐に渡りました。

切差は、平坦地が少なく傾斜地が多い地区ですが、傾斜地の水はけの良さは、こんにやく芋の栽培に適した地形でもありま

※区長さんをはじめとした切差地区9名の方にお話を聞きました。

※本文は全員のお話をまとめた形式で記述させて頂いています

※昭和50年代の地区の生業と地区の特色を中心にお話しを聞いております

質問① ご自身の歴史

・ご自身の価値観や仕事観の形成に大きく影響したと考えられる、人生中の濃い期間や転機について教えてください。

昭和50年代までの切差地区は、絹糸を採取する養蚕を生業としてきました。

養蚕は「おかいこさん」と呼ばれ、それぞれの家の2階3階部分を作業場として家族ぐるみで取り組んでいました。その名残で、地区にある家屋の大部分は3階部分のある切妻造りの大きな古民家が占めており、独特の



す。水はけのよい傾斜地の日向にこんにやく芋を植え、日陰には桑の木を植えるというように、限られた土地を有効利用し生活の糧を得るようにしてきました。こんにやく芋は栽培に3年かかりこんにやくにするまでに時間がかかりますが、当時は現金収入として重要なものだったので

す。このように、こんにやくと桑を植えた残りの土地で畑作を行っていたわけですが、稲作を行えるような土地はなく地区内に田んぼはありません。そのため、切差の住民は皆、少し下った八幡の水口地区に少しばかりの棚田を持ちお米を作っていました。当時の棚田の稲作は、牛や馬で耕し、家畜の糞を肥料とするような稲作です。稲作のために切差と水口を往復し、自分たちが消費するための米を栽培していたのです。

一方、川魚の養殖は、ヤマメに似た川魚であるアマゴの養殖を兄川の支流の湧水を取水して行っていました。切差地区は、現在に至るまで、付近の山を源泉とする湧水を飲み水として利用しています。飲み水の管理は、現在では他の多くの地域と同様に市の水道課に行ってもらっていますが、長らくは地域の管理水道組合が行って来ました。川魚の養殖は、そのような澄んだ水を使うことが出来たからこそ、行

えていたものだったのです。この他にも、シメジの栽培を行ったりしましたし、春のお金が無い時は雑木を伐採し販売するなども行い、日々の生活の足しとしてきたのです。

昭和の途中までは、上記のような生活を送ってきましたが、だんだんと現金確保のために地区外に出て働く必要が発生してきました。最初に取り組むようになった仕事は、市街地を中心に行われている土木作業であり、そこから様々な仕事に取り組むようになりました。特に若い世代は、生活のために切差を出て市街で働くようになり、地区全体から人が出ていくようになっていきました。

このような事態は切差に限らず山梨市内全域で進んできたことかと思いますが、出ていってしまうだけではなく、何かしら人の入りがあるようになると楽しいのではないかと考えております。



質問② 昭和50年代のライフスタイル

■季節単位  
季節ごとに変化する生活ぶりを簡潔に教えて下さい。

・春

4月に、稲作の開始として粃まきと麦の収穫をする。繭を採るために、桑の葉が育ち始める5月20日頃から蚕の生育を開始する。やがて6月に入ると蚕が糸を吐き繭作りを始める。二晩寝ずの管理をする時も多々ある。出来上がった繭を集め、繭のまま業者に出荷する。

・夏

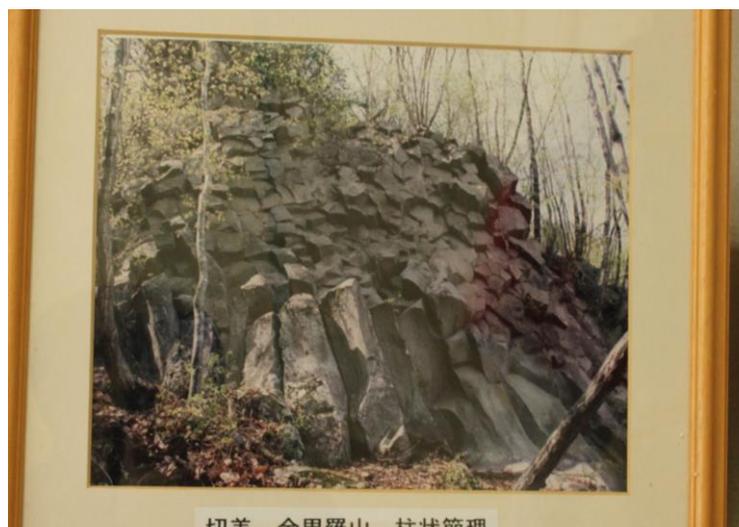
繭を採るために、蚕の生育を開始する。畑や田んぼの草刈りに忙しい。真夏ではあるが、標高が高いため、暑さも程々な感じだ。

・秋

繭を採るために、蚕の生育を開始する。10月には稲刈から始まり、お米にかかわる作業を行う。秋は特に忙しい。晩秋には4回目目の繭取りのため、蚕の生育を開始する。

・冬

味噌などの加工品づくりを行う。冬期の現金確保のために、雑木林を伐採し木材業者に販売する。



市指定天然記念物『切差地区 金比羅山 柱状節理』の紹介

木材を積み重ねたように四角形、五角形、六角形の見事な柱状節理が、切差北部の金比羅山に発達しています。秩父裏街道と合わせ、見学可能です。

[http://www.city.yamanashi.yamanashi.jp/citizen/docs/city\\_104.html](http://www.city.yamanashi.yamanashi.jp/citizen/docs/city_104.html)





質問③ よく使う仕事道具



蚕が繭を作る器具

・生業(なりわい)が人の人生を形作るとの観点から、仕事道具は人の生きざまを具現するものと考えています。一点ものでも消耗品でも構いませんので、大切な仕事道具を一つ見せてください。

かつての地区の生業であった養蚕の道具をお見せします。各戸で養蚕の道具を持っておりました。

今では持っている人も大分減ってきましたが、家の隅を探せば出てくるものです。

質問④ ご自身がお住みの地区について思うところ



糸を紡ぐ器具

・地区の自然環境、歴史、風俗(祭りなど伝統的なもの)などの特徴をあなたの視点で紹介してください。

現状では、切差地区だけで何かをしようとするのは非常に難しいと考えております。

地区内で働くところが無い事と、一番近かった堀内小学校が廃校になり通学が困難な事が状況に拍車を掛けています。八幡小学校ですら在校生がどんどん減少している現状もあります。

この問題は、交通手段が乏しいことが一番の原因となっていると考えています。交通に関する何かしらの仕掛けが無いと、今後、日常生活も大変になっていくのではと危惧しております。

一方で、夏は涼しく静かな環境のため、避暑地としては非常にいい場所だと思います。実際、地区外の方が空き家を購入したり借りたりして、暑い期間中滞在している事例もあります。本



繭の周りの糸を取る器具

当は、避暑だけではなく年間を通じて住んでくれることが一番だと思えますし、そのような方がいたら大いに歓迎したいと思います。

いずれにしても現住者としては、切差地区に骨を埋めるつもりで暮らしていますし、仕事を終えた人も多く、気兼ねなく暮らせる場として楽しんでいます。

↑切差区公民館に展示されている法輪寺所蔵  
金銅金具装笈宝の写真

↓金銅金具装笈宝の内部にある五智如来の写真



質問⑤ 外に向けた地区の情報発信と地区内への情報伝達

・他地区に紹介したいご自身の地区の良いところを教えてください。  
・ご自身の地区への意見などを教えてください。

切差地区は、八幡地区の一部を形成しておりますが、歴史を振り返ると意外に面白い面があります。

切差地区は、戦国時代には武田氏軍用秘密道路であった「秩父裏街道」の一部を形成しています。「秩父裏街道」は、武田館(躑躅ヶ崎館)から始まり、切差地区・牧丘地域・三富地域を経て埼玉県の秩父まで至ります。その中で、甲府市と山梨市の境界にある太良賀峠(太良峠)を越えてすぐに「戸市関」がありました。これは、躑躅ヶ崎館から数えて



第一番目の関所Ⅱ「一の戸」(イチノト)であることから命名されたもので、地名も「戸市」(トイチ)となっています。

この第一番目の関所Ⅱ「一の戸」の守将は、松土(まつど)姓を名乗っていました。切差地区には松土姓が多いのですが、この松土氏の末裔であるからとか、元々の地名が「松土(まつど)」、もしくは「まんど」と読む」であつたため松土姓を名乗つたとか、諸説あるような状況です。

太良賀峠(太良峠)へ至る道は、今でこそ自動車道路ができていますが、本来は険しい峠越えの道です。古来から太良賀峠(太良峠)とそこに至る道は、自動車道路からは若干ずれた場所にあります。そのため、足を踏み入れる人も少なく、時間の経過とともに、峠からの景観が樹木に隠されるようになって来ました。古の守将達が甲府盆地を見下ろしていた景観を廃れさせるのは本意ではありません。今後、帯那山の手入れも含め、名地域内外の力で守っていければと考えています。

秩父裏街道における切差地区の次の集落は、「天王ザクラ」で有名な牧丘地域の赤芝地区になります。そのため、切差地区は赤芝地区を中心とした牧丘地域西部(西保下)の各地区との交流が盛んで、盆踊りなどの年中行事

が行われる際には、鍵懸峠(古峠)を越えて皆で参加しております。そのため、切差には西保下地区からの嫁入りが多く親戚関係が多くあります。かつては、この鍵懸峠(古峠)が男女の「泣き別れの場所」とも言われ、色々なドラマがあつたと聞いております。他にも、秩父裏街道の武田の狼煙台であつた城山(切差城跡)や金比羅山の柱状節理などがあり、これらをハイキングとして楽しめる道がありますので、是非お越しください。往年のドラマを感じて頂きたいと思えます。

切差の集落の様子



## 質問⑥ 他地区について

・山梨市の地区で、ご自身が行ったことないが知りたい／行ってみたい地区があれば教えてください。

■ 牧丘地域の塩平地区は、家の中に座りながらにして富士山を見ることが出来ると聞いている。また、若い移住者が増えているとも聞いているため、訪問して様子を聞いてみたい。

■ 奥秩父主稜線上の「大弛峠」と「夢の庭園」を訪問してみたい。

■ 八幡地区と牧丘地域西保下地区をつなぐ新しい道路である、野瀬坂を車で走ってみたい。

